

平成 26 年 4 月 14 日

平成 26 年度病虫害発生予察注意報（第 1 号）

和歌山県農作物病虫害防除所

1. 病虫害名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシの越冬成虫）
2. 対象作物：ウメ、モモ、スモモ、カキ、カンキツ
3. 対象地域：県内全域
4. 発生量：多
5. 加害期間：5月上旬～
6. 注意報発令の根拠：
 - 1) 落葉中のチャバネアオカメムシ越冬成虫は、1地点落葉 50 リットル当たり 2.1 頭で、前年（0.1 頭）、平年（0.3 頭）より多く、調査を開始して以降、1996 年（9.5 頭）に次ぐ越冬量で、過去 10 年間で最も多かった（第 1 表）。
 - 2) 越冬成虫の捕獲地点率は 51.1% で、前年（6.3%）、平年（16.0%）より高かった（第 1 表）。
 - 3) 農作物病虫害防除所みなべ駐在（みなべ町東本庄）に設置された予察灯での前年の果樹カメムシ類の新成虫の誘殺数は、チャバネアオカメムシが 9 月に 24,262 頭、10 月に 7,293 頭、ツヤアオカメムシが 9 月に 11,719 頭、10 月に 25,418 頭と両種とも極めて多かった（第 2 表）。
 - 4) ツヤアオカメムシは、紀中、紀南地域で越冬期に防風樹や中晩柑園で多く認められたことから、越冬密度が高いと推定される。

第 1 表 チャバネアオカメムシの越冬密度 調査地点: 県内全域

年次	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	平年値
捕獲頭数/1地点	0.7	0.0	0.1	0.1	0.1	0.3	0.3	0.0	1.0	0.1	2.1	0.3
捕獲地点率(%)	43.3	1.6	9.5	9.5	12.7	20.3	18.2	1.6	37.5	6.3	51.1	16.0
調査力所数	60	63	63	63	63	64	66	64	64	64	47	—

注 1) 定点における雑木林の落葉 50% を 1～2 月に調査。平年値：過去 10 年間の平均値
注 2) 捕獲地点率は全調査地点のうち越冬成虫が捕獲された地点の百分率

第 2 表 乾式予察灯への果樹カメムシ類の誘殺数(単位: 頭)

時期	カメムシ類	2010	2011	2012	2013
9月	チャバネアオカメムシ	870	6,903	755	24,262
	ツヤアオカメムシ	392	1,202	595	11,719
10月	チャバネアオカメムシ	5	88	0	7,293
	ツヤアオカメムシ	96	682	18	25,418

調査場所: みなべ町東本庄

7. 防除上の注意事項

- 1) 果樹カメムシ類の飛来量は園地間差が大きいので、園内での発生及び被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- 2) ウメ・モモ・スモモでは、収穫前に越冬成虫の飛来が確認された場合は速やかに薬剤による防除を実施する。
- 3) ウメの被害は品種間差が大きい。小梅類等の収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるので、これらの品種では特に注意が必要である。
- 4) カンキツでは蕾、花が加害されるので、被害状況を観察して防除する。
- 5) 今後の発生動向については農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報（<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>）や各地域の振興局、J A 等の情報を参考にする。
- 6) 農薬については、農林水産消費安全技術センター（FAMIC）の農薬登録情報提供システム（http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）で最新の登録情報を参照し、適正に使用する。

担当：和歌山県農作物病虫害防除所

ウメ	みなべ駐在	貴志	TEL:0739(74)3780
モモ・スモモ・カキ	紀の川駐在	木村	TEL:0736(73)2274
カンキツ	有田川駐在	中	TEL:0737(52)4320